

新潟県

公民館月報

昭和57年11月号

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【電話・新潟 (0252) 24-6073】【振替新潟 4049】

発行人 会長 石井 耕一

編集人 事務局長 本田 清

【定価1部 100円 年共・年権 1,200円】



最後の誓女

今は亡き民俗研究家で誓女を世に出した市川信次さんに聞いたことであるが、明治三十年頃高田には百人近くの誓女がいた。社会福祉制度も無かったころ、盲目の誓女たちに毎年百石の飯米を無償で提供したのは上越地方の農村の人々であった。一方誓女たちは年間三百日も村々を歩き回り、物語歌などを村人にきかせて楽しませた。その旅のコースと日程は年々変ることにはなかった。また、誓女の社会では収入はすべて頭割に平等に分配された。七才の幼女も三十才の働き盛りも、年老いた者も差別なく、と。今、高田には中世からの伝統を受け継いだ誓女が三人、一つ家に仲よく暮しているが親方の杉本キタイさんは八四才になって病床にいた。あとの二人は六七才と六六才になった。国承文芸の伝承者たちは、越後の水田地帯からはさ木が姿を消していくように、もうその歩く姿を見せてはくれない。

絵・文 仲田大二

上越市社会教育委員会副会長
上越市図書館協議会委員長
上越市美術展覧会運営委員長

長野で第5回公民館研究集会

一、八〇〇名が集い学ぶ

21世紀へ向け「あるべき姿」模索



(第二日目長野市市民会館に1,800名が集う)



祝辞を述べる小川文相

さる十月十三・十四日の両日、第五回全国公民館研究集会が長野市で開かれた。全国からの参加者は一、八〇〇名、本県からの参加者は石井会長以下十五名にとどまった。この大会の成果は十二月二日東京で開かれる第三十一回全国公民館振興大会に反映される。

「生涯教育を推進にあたり、公ック選出発表者による基調発表、民館の果たすべき役割」を追究する。それに対する質疑、参加者相互にて意見を述べた。この研究集会は、第一日目から、それぞれの分科会へと足を運ぶという方式。したがって開会には、マイクを通じて田村会長連会長のメッセージが述べられる程度の簡素なもの。分科会は、管理経営部会四分科会(十二分科)、事業活動部会四分科会(二十七分科)といふ。この採択がはかられた。内容は「今日の米谷の小川文相の一その活躍を祈念して万才三唱」というもの。鶴田氏は「長野県公民館研究集会」を述べた。

「生涯教育を推進にあたり、公ック選出発表者による基調発表、民館の果たすべき役割」を追究する。それに対する質疑、参加者相互にて意見を述べた。この研究集会は、第一日目から、それぞれの分科会へと足を運ぶという方式。したがって開会には、マイクを通じて田村会長連会長のメッセージが述べられる程度の簡素なもの。分科会は、管理経営部会四分科会(十二分科)、事業活動部会四分科会(二十七分科)といふ。この採択がはかられた。内容は「今日の米谷の小川文相の一その活躍を祈念して万才三唱」というもの。鶴田氏は「長野県公民館研究集会」を述べた。



(館報編集について学ぶ分科会)

はかる。このとき会場の一角から発言を求めた大谷氏が「この大谷氏が「後藤新平(公民館づくりに参加の先駆者)のまことに大プロシキを者馬鹿にするな。この勳章を撤もいから二十一世紀に向けての回せよ。」と叫ぶ。これに対し「あるべき姿」をここでまた示して鶴田会長は岡谷市館長の勳章を「いふ必要がある」とする発言拍手多数をもって採択、万才三唱は、適度なユーモアと正確な進行の音頭をとった。会場からはおぶりで評価の高かった安田氏の司会も「公民館」算を減らした文相、もうすぐやめてしまえ文相に万才三唱とは何ぞか。」と食いさがる声も聞かれ、騒然たるうちに開会式を終った。

このあと十時から「二十一世紀に向けての公民館の新たな役割」をテーマとしてシンポジウム。登壇者は家として生き抜いてきた長野県生れの日本女性の意見」を感じさせられた。午後三時、閉会式は次期開催長野県公民館長中村孝二氏、中野市中央公民館館長水谷正氏の四氏、司会万才三唱で幕を閉じた。

◎ ◎

題と展望 (1) 第5回全公研集会分科会記録速報から

ウ、公民館の役わりを「町づくり」の拠点と考えている。従って職員専門性も地域課題や生活課題と取り組む必要がある。

ニ、利用現況に応じて職員の勤務体制を考える必要がある。(例えば、夜間貸館は利用団体の自主管理とする例あり)

(2) 対象区域の問題

ア、地域課題と正面から取り組むには、身近な類似公民館の役わりが重要である。(例えば、類似館を条例で位置づける運動をしている例)

(3) 複合施設での問題

ア、住民の利便性を中心に考えつつも、公民館の役わりを明確する必要がある。

イ、公民館はあくまで地域に根ざしたものでありたい。

3. 今後の課題として

(1) 従来事業中心の公民館から、地域づくりの拠点としての公民館の役わりを考えると、公民館職員の専門性は、地域の教育力の組織者としての実力、生涯学習の情報や相談者としての知識・技術更には、他の社会教育施設等との連携調整等々の専門的実力をつけるべく努力されたい。

討議内容 ○対象区域、施設設備、職員配置、サービス、経費および管理について

○これからはどうあるべきか

司会者	岡山県倉敷市水島公民館長	高田 米 蔵
助言者	東京都国立市企画広報部長	徳 永 功
基調発表	宮崎県宮崎市楯公民館長	黒 木 重 実

宮崎市における公民館の現状と問題点

1. 中央公民館

宮崎市においては、昭和45年に「社会教育センター」がつけられて、さし当り中央公民館的な機能を果たしていたが、本年5月9日社会教育拡充の一端として、「文化の森」に全市民対象の近代的設備と機能を誇る中央公民館が堂々開館オープンし、全市民のニーズに対応できつつあることはまことに喜ばしく、力強い限りである。

開館と同時にそれまでの「社会教育センター」は地区公民館「小戸公民館」として新しく発足した。

2. 地区公民館

地区公民館は昭和47年度に赤江公民館が開館して以来、名中学校区に1館設置の基本方針のもと年次計画で建設が進められ、現在11館の設置をみており、今後も中学校が新設されると同時に設置されることになっており、すでに58年度は大塚中学校区に、59年度は東大宮小学校区に設置される予定である。

3. 共催・主催行事の主なもの

昭和57年度公民館共催行事一覧表

1 地区対抗バレーボール大会	2 婦人バレーボール大会	3 婦人バドミントン大会	4 子ども球技大会	5 野球大会	6 卓球大会	7 老人クラブゲートボール大会	8 ソフトボール大会	9 駅伝大会	10 少年駅伝大会	11 少年マラソン大会	12 地区体育大会	13 公民館対抗スポーツ大会	14 産業、文化祭	15 公民館まつり
----------------	--------------	--------------	-----------	--------	--------	-----------------	------------	--------	-----------	-------------	-----------	----------------	-----------	-----------

昭和57年度公民館主催行事一覧表

1 一般教養学級、講座	2 青年学級	3 婦人学級	4 高齢者学級	5 幼児家庭教育
-------------	--------	--------	---------	----------

学級	5 家庭教育学級	6 若妻学級	7 農事教室	8 民話教室	9 親子教室	10 成人講座	11 壮年講座	12 一般教養講座	13 文学講座	14 公民館学級生大会
----	----------	--------	--------	--------	--------	---------	---------	-----------	---------	-------------

2 趣味的教室、講座

1 園芸教室	2 盆栽教室	3 農園芸教室	4 家庭料理教室	5 舞踊教室	6 生花教室	7 茶道教室	8 着付教室	9 和裁教室	10 手づくり教室	11 親子手づくり教室	12 書道教室	13 絵画教室	14 版画教室	15 七宝焼講座	16 コーラス教室	17 バレーボール教室	18 バドミントン教室	19 卓球教室	20 郷土料理教室
--------	--------	---------	----------	--------	--------	--------	--------	--------	-----------	-------------	---------	---------	---------	----------	-----------	-------------	-------------	---------	-----------

4. 問題点

ア) 各公民館の利用者の内容をみると同一人の利用が多く底辺のひろがりやが仲々望めないが今後も絶えず努力したいものと思っている。

イ) スポーツ熱の高まりは非常に結構であると思うが、このことも限られた一部の利用者が多く、やや過熱気味であり、教養講座・教室への参加をも呼びかけている。

ウ) 青少年の健全育成・各種団体のリーダー養成等、当面している問題をかかえているが主催事業化する為には、職員の配置、予算、その他、行政的な面での問題が提起されている現状である。

エ) 地区公民館の職員は女子職員を除き全員、校長経験者、市役所の管理職退職者の嘱託職員(週30時間勤務)で構成され全員1か年、継続3か年の短期間契約で退職交替する為、落ち着いた経営と取り組みが出来ない基本的な悩みがある。

記録速報

1. 討議された事項

- (1) 管理経営の前提として、公民館の目標をいかに考えるか
- (2) 教育機関としての独自性をいかに考えるか
- (3) 広義の事業とその運営をいかに考えるか

2. 討議の内容

- (1) 公民館の目標について、公民館が地域の中でどのような役割を果たすべきなのか、いかなる人間像をみざすのかについて、社会教育法に明記されているという意見、市民性を高めることが目標という意見などが出されたが、寺中構想のめざしたものを現時点でもう一度想い起しながら、目標理念について独自の言葉で明確化される必要がある。
- (2) 教育機関の独自性について、館長の権限、特に職員の専門性について論議が集中。専門職の専事は要らない。3年交替でよい、5年がマキシмумである等の否定的意見が強く、専門性の内容や身分保障については意外にも大変消極的であった。
- (3) 事業について、入門式事業、成人学校的内容でよいのか。民間カルチャセンターとの競合はさけるべきではないか。市民性を高めることが目標である、などなどさまざまな意見が出された。

3. 成果と残された事項

- (1) 都市化状況の中で不明確になりつつある公民館の目標を、生涯教育のための独自の役割を果たすべき教育機関として再確認すること。
- (2) 事業については、事業の立体化と学習の構造化という考え方で、裾野をひろげながらも、学習に焦点を当てるべきであること。
- (3) 職員の専門性については、非常に大切で、深い専門性が要求される仕事なので、身分保障を含めて、さらに論議を深め、さらに一層力をそそぐべきであること。

都市における公民館の管理運営の課

第5回全国公民館研究集会在さる10月13日・14日長野市で開かれ、分科会記録が翌日速報として参加者の手に渡された。

この大会では、管理経営部会13分科会、事業活動部会27分科会が設定され管理・経営・事業活動の具体策について熱心に討議された。ここに内容の一部を要約して紹介していきたい。

討議内容 ○対象区域、施設設備、職員配置、服務、経費および管理について。
○これからはどうあるべきか。

司会者 福岡県北九州市小倉北中央公民館長 熊本作巳
助言者 神奈川県座間市社会教育課長 横谷光男
基調発表 香川県善通寺公民館長補佐 饒庭健

善通寺公民館の現状と運営

1. 善通寺市のあらまし

本市は、讃岐平野のほぼ中央に位置し、面積40km²、人口38,000人、世帯数11,000戸の田園都市である。

古くから、弘法大師生誕地・総本山善通寺の門前町として栄え、戦前は11師団、現在は自衛隊の駐とんどで、大学2・高校3がある教育文化都市でもある。

2. 公民館の歩み

昭和29年、1町4村が合併して市制をしき、庁舎移転後、旧町役場跡に中央公民館を、昭和30年に開館し、課長兼務の館長1名、主事3名でスタートした。同時に、各小学校区ごとに8つの分館を置き、旧村の分館には2名の職員を配置した。

3. 善通寺中央公民館(市民会館)

(1) 概要
中央公民館・図書館・老人福祉センター・母子健康センターを併設した市民会館を、昭和53年に新築した。その敷地面積は9,225m²、建物面積4,574m²(内公民館2,806m²)である。

公民館施設として、大講堂1、会議室6、実習室3、集会室3、駐車場100台収容がある。

(2) 職員
館長1・補佐1・係長1・主事5・会館管理要員4計12名で、市民会館の兼務辞令を受け、管理業務を兼ねている。

(3) 事業
ア、市民講座は、年2回、18コース・750名で実施している。合同開講式のとき、記念講演を行っている。

講座のマンネリ化を防ぐため、毎回6コース程度を新しい講座に変えている。

また、さん新なものとして、マイコン・ヨガ・カラオケ・ンバオケ等があり、教養講座として、郷土史・英会話・俳句等魅力ある講座の開講に努めている。

イ、各種学級は、地区リーダーの養成を含め、全市より受講生を公募している。

ウ、特定事業として、さわやかコンサート・親子工作教室(夏冬)・グループ活動発表会・公民館まつり・市民ギャラリー・クラシックコンサート・講演会等、一般市民が気軽に参加できるように工夫している。

エ、市民講座から発展したグループ活動が、本館だけで41に達し、自主的に活動している。そのほか、各種発表会・集会・展示会等の貸館事業がある。

- (4) 運営上の課題
- ア、人気講座に申し込みが殺到し、定員をすまわったり、新しい講座の指導者さがしに苦慮している。
- イ、昭和56年度貸館事業2,071回が、公民館活動1,808回を上まわり、職員の負担増になっている。殊に、ホール使用には最低4名が必要である。
- ウ、ホール使用時には駐車場が不足し、講座参加者と、トラブルが起り易い。
- エ、日曜や夜間勤務に問題がある。

4. 地区館

(1) 整備6か年計画
昭和54年度より、8小学校区に地区館を6か年で建築する計画により、昨年度までに3館竣工し、本年2館・続いて3館建築する予定である。旧町内の地区館に、順次専任職員1名を置いている。

(2) 施設
地区館の建物面積は335m²で、事務室1・図書室1・集会室2・調理室1の5室を有している。

(3) 事業
各種学級講座・集会・グループ活動等を行っている。なかでも、各地区館がそれぞれ工夫をこらした親子読書・三世交流・親子体力づくり・生活改善活動・伝承技術講座等がある。

(4) 地区館の課題
ア、専任職員1名のため、勤務時間と運営のやりくりや、事業の質的向上をはかる方策などに問題がある。

イ、その上、旧4村の住民には役場支所的な考えが、今も尾を引いている。

ウ、旧町内4地区館は、中央公民館主事が兼務しているため、地区館の事業が制限されることがある。

5. 残された課題

- (1) 中央館と地区館の運営内容を明確化
- (2) 地区館職員の二人制と雑務の排除
- (3) 設備の充実と新規事業の開発
- (4) 住民の自主活動を促進
- (5) 固定市民の参加から誰れもが参加できる事業や方法の検討

記録速報

- 1. 討議された主な事項
- (1) 職員の問題(専門性を高める充実方策、配置、勤務体制等々)
- (2) 対象区域の問題(市民の生涯学習を積極的に助長するという観点から等)
- (3) 複合施設での公民館の位置づけの問題(行政事務所との併置等々)
- (4) その他(自主グループ育成の問題)

2. 討議の内容(主な意見)

- (1) 職員の問題について
- ア、公民館(教育機関)と社会教育課(行政事務)の役割を先ず明確にしよう。
- イ、公民館主事専門性の資格や処理についても明確にできるように努力しよう。(例えば採用の時点から「公民館主事」として採用している例あり)

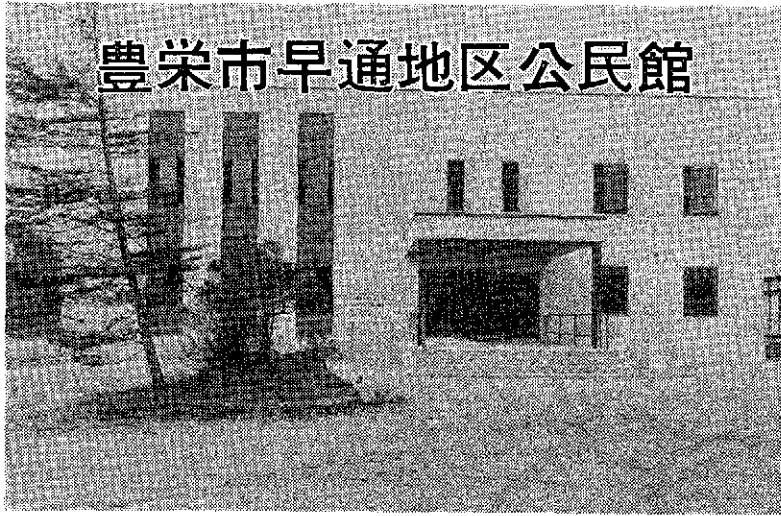
新生公民館繁盛記

(24)

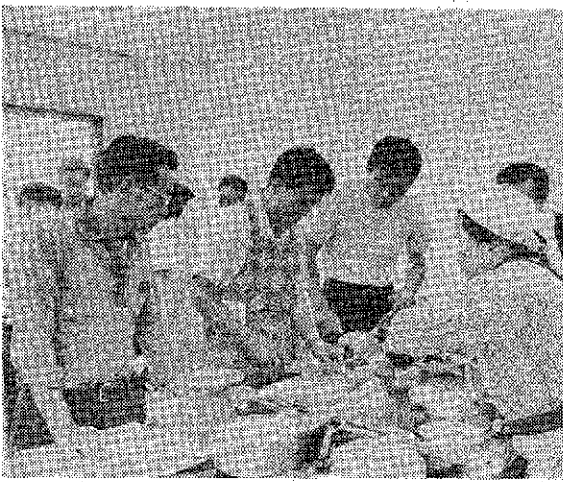
公民館は花ざかり、これまでですてに三十一館の公民館が登場。好評をいただいています。これからもう少しご紹介いたします。

コミュニティー活動の拠点

集いの場・学びの場として大盛況



豊栄市早通地区公民館



(酒の肴づくり講習会で父おさんもハッスル)

。十年間で人口は十倍
新瀧市に隣接する豊栄市の早通
団地は、かつて果樹生産の盛んな
純農村地帯であった。
この地区に数階建の県営パー
セメント、一戸建の分譲住宅が出現し、八、九〇〇人と十年前のほぼ十倍

たのが十年ほり前である。
以来新瀧市のベトナムンとし
て急速に開発が進められ、現地で
は県営パーセメント四十九棟を含む
世帯数が約二、五〇〇、人口で約
近代的な館がオープンした。

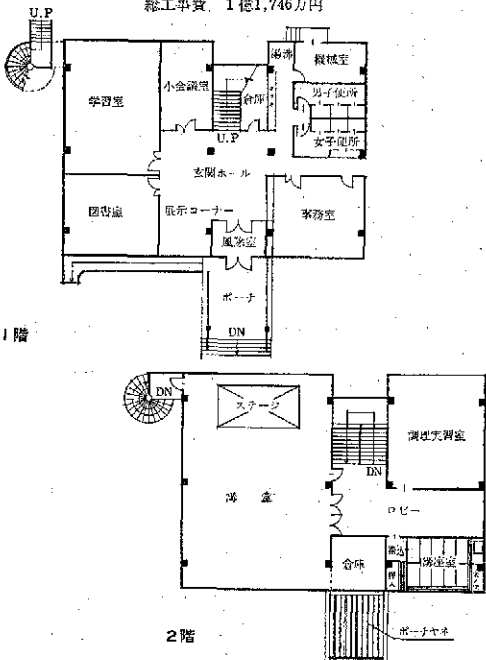
に膨れあがった。
そして、今後も年々発展が見込
まれている。
。三点セットの施設
当地区公民館は、昭和五十四年
に市役所直轄出張所に間借りの方
で併設された。
しかし、手狭で何かと不便なた
め、地区では独立した公民館の早
期建設を強く要望していた。
その念願が叶い本年四月、旧早
通小学校跡地に中央公民館(次々)

この新公民館の両隣りには、一
足先に「地区老人愛の家」と「地
区児童センター」が完成してい
る。三つの施設は、機械的に利用
されるであろう、それぞれが特色ある
内部設計となっている。
子どもから若年寄りまでの三世
代用の複合施設は、地区の「三点
セット」とも称されている。
。広がる連帯の輪
代々からの地に住む人、ここ
を永住地として移って来た人、当
分の間早速に居を構えている人、
お互い顔も名前も知らない住民の
親睦を図るため、毎年三千六の全
自治会をあげて、コミュニティー
行事が活発に開かれる。

春は各種の球技大会、夏は多彩
なるさくらまつり、秋はチーム対
抗の大運動会、冬は室内遊技大会
と年を追って活動も盛んになり、
事務局の公民館も手不離れであ
る。
今年度新たに開設した、教養・
趣味講座等も好評草々にして、満
員となる盛況ありである。
また、各種の団体、クラブ等
は、受け入れ施設を呼応するよう
に、集いの場、学びの場として屋
夜の別々活用している。
このように、地域の連帯感は大
第に浸透している様子がかがえ
(豊栄市早通地区公民館)

平面図

鉄骨コンクリート二階建
延床面積 715㎡
冷暖房完備
総工事費 1億1,746万円



1階

2階

あの頃のこと

県 公 連 結 成 前 後 (3) 間 野 良 知

昭和二十四年六月社会教育法が公布施行され、県内の公民館設置状況も着々と進展して、年々にはほぼ百パーセントを達成するに至った。

それにとどまらな社会教育への関心が急速に高まり、各都市プロックの連絡協議会というものも次々と結成されてきたのである。

県の指導も増井健三郎理事を中心に、猪俣武雄理事、甲田敏郎理事その他強力なスタッフによつて精力的な活動が進められた。

私の記録を見ると二十四年度は、県の記録を見ても二十四年度は、公民館長会議等が十回余開催されている。すでに表彰を受けた協定公民館も外部スタッフとして協力体制をかため、要請に応じては参画したものである。

こうした情勢の中から期せずして全県公民館横の連携の動きが生れ出してきた。

○県公連結成への第一声
昭和二十四年二月二十五日、越後自治会館で県下公民館長会議が開かれた。市、町、村別にそれぞれ独自の議題を設けて協議を全

体に報告をし決議をするという方式であった。

各部会を通じて六つの重要提案があったが、その中に市部会からの「全県下公民館連絡協議会を結成し、年二回総会を開く」というのがあった。これが県公連の生まれの最初の声でいわば進めともいふべきである。

勿論万端一致では議され、その具体化については部会を通じ十名の委員が挙げられて一切を委任された。

会議終了後直ちに委員会を開き左記の件が決定された。

1、本委員会を結成準備委員会に切りかえる
2、名称は新潟県公民館連絡協議会とする
3、事務所は県社会教育課内におく
4、結成時期の目標を本年七月とする。

こうしてせっかくなスタートしたものその後施設の事情で準備が進展せず、空しく一年を過ぎてしまった。

○再び気運盛り上がり遂に

結成される
昭和二十五年三月二十九日、自治会館における県公民館長大会で再度県公連結成の件が上程された。しかも急ぎの實現が決議された。前回の準備委員会にかわつて新しく各部市別代表による委員会を再構成、直ちに別室で協議が行われた。

委員長に神戸公平(大畑)

書記に間野良知(小須戸)を選定、先ず会則原案の審議しつゝ、たが、時間の關係で第二案を打ち切り残りは新潟市公民館連合会に一任しようことになった。

ようやく準備もなつたので五月二日、自治会館で結成のための県下公民館長協議会が開かれた。神戸委員長の経緯報告に次いで会則案の逐次審議がなされたが、殆んど原案通り全会一致で可決された。

会則は第一案より八条までで、現県公連会則(数回改正)に比べ極めて簡単なものであったが第五

「会長、副会長は評議員会で選出する。評議員は各都市公民館連絡協議会の推薦したものとす。

幹事は協議員会の承認を経て会長が委嘱するものとする」

とあつたので正式役員は次の評議員会に持ち越された。

なお附則に「この会則は昭和二十五年五月二日より施行する」とあるのが現在でもこの目をもつて結成の日としてあるが、完全な形になつたのは六月二十四日長岡市公民館が開かれた評議員会かこころにいたるまで熱心な指導助言を与えられた社会教育課の理事諸先生へ、また相次ぐ会議や打合わせをいとわず真剣に参画した役員の苦労は大へんなものであつた。すでに大半の方々物が改ざれていき、心から御賞福をお祈り申し生ける次第である。

(前小須戸町公民館長)



女たちの越えてきた道

高橋 ハナ 著

女たちの越えてきた道

—自立への旅立ち—

「女たちの越えてきた道」自立への旅立ち―最も混乱の激しかった昭和二十年代のさなか、地域婦人会員のひとり一人が、この激動の時代をどのように切りひらき、新しい生活をたて直していったかということについての具体的な証言集であり、ドラマチックな女性生活史である。申込先

著者の高橋ハナさんは、当時 干野 新潟市川端町2-19 県教委の婦人担当の社教主事と 県林業会館内 県公民館連合会

他、事務局設置、予算及事業計画、会費下役職員パッチ作成等の諸件が幹事会に委任された。

次いで七月十五日長岡市公民館での第二回評議員会で、二十五年度の第一回評議員会、外四件の議案が可決成立したのである。かくして県公連もようやく地についた歩みが始つたのであるが、ここにはいたるまで熱心な指導助言を与えられた社会教育課の理事諸先生へ、また相次ぐ会議や打合わせをいとわず真剣に参画した役員の苦労は大へんなものであつた。すでに大半の方々物が改ざれていき、心から御賞福をお祈り申し生ける次第である。

(前小須戸町公民館長)

資料 歡迎

公民館で作成した資料や文芸作品集または領帳などをご届送くださいませんか。県内の皆さんへ紹介してまいりたいと思ひます。

投稿 歡迎

感想文でも結構、折にふれ、気懸にペンを走らせてください。採用文には粗品を差し上げておきます。

—編集部—

あとがき

全国公民館研究集長野大会は秋口和にめぐまれ、盛会のうちに終了しました。それしても本県からの参加者が二十名たらずと少ないのはどうしたことでしょうか。関東ブロック大会が東京で、ひきつづいての会公連大会が長野県でというのでは、めまぐるしいようでもありますが、富山県六十四名、石川県七十七名、山梨県三十一名などにくらべ少しさびしい気がしました。

次年度は盛岡大会、いまだに算盤をたて、よろしくお願ひいたします。

(本)